

令和8年度 豊島区立清和小学校 学校経営方針

令和8年4月 校長 内田 典子

【今年のテーマ】

「誰もが安心して学び、個性が輝く『レジリエンス』のある学校」

～互いの違いを強みと捉え、認め合い高め合う力を育む～

○文科省の「誰一人取り残さない個別最適な学び」→「学びを楽しむ学校」

○東京都の「安全・安心な学校づくり」 →「安全安心な学校」

○豊島区の「多様性を認め合う共生社会」 →「地域とともにある学校」



「教職員のウェルビーイング」と「インクルーシブな指導体制」を基盤に実現

「まずは自分たち(教職員)が笑顔に」

「誰もが心身ともに健康で、自分のよさを生かし、やりがいを感じられる職場」「組織的に対応し、心理的安全性の高い職員室」でありたい。

そのために、日々の対話や具体的なフィードバックを通して、教職員の成長を継続的に支える仕組みを整えていく。

1. 教育目標に基づく重点取組

① 「考えを活かして挑戦する子」(知識・学びに向かう力)＝「学びを楽しむ学校」

・ICT を効果的に活用した「わかる・できる」授業 学
習のつまずきが問題行動に繋がりやすい現状を鑑み、ICT を効果的に活用した視覚的支援(UD化)を徹底する。言葉の壁がある外国籍児童も「視覚でわかる」授業を展開し、達成感を味わわせる。問題解決的な学習に引き続き取り組み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を推進する。

・スモールステップの挑戦

日々の学習や生活の中での小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める。

② 「深く学び創造する子」(思考力・表現力・判断力)＝「地域とともにある学校」

・「大塚ろう学校」から学ぶ多様な表現

大塚ろう学校との交流を「特別な活動」ではなく、「言葉以外の伝え方※」を学ぶ日常的な機会とする。こ

れは外国籍児童にとっても、非言語コミュニケーションの重要性を学ぶ貴重な機会となる。

※表情・視線・ジェスチャー・声のトーン・姿勢・距離感等

・地域(巣鴨地藏通り商店街)や外部人材と連携した授業

地域の人材・歴史・文化財を生かした教育活動により、地域愛を育み、社会参画意識を高める。

③ 「認め合い豊かに成長する子」(人間性・自立)＝「安全・安心な学校」

・「清和ユニバーサル・マインド」の育成

違いを「よさ」や「強み」と捉え、互いを「かけがえのない一人」として認める心の教育。福祉の視点(ろう学校交流)を、校内の多様な友人関係への理解に繋げる。

・いつでも誰にでも相談できる環境づくり

既存のトークポストを「相談したい人を選ぶ」形に変え、児童が安心して相談できるようにし、学校全体で見守り育てる環境を整える。

2. 持続可能な学校運営

① 「チーム清和」による教員負担の軽減(働き方改革)

副担任制や分掌副主任制、教科担任制を進めることにより個人の負担を分散し、複数での対応を基本とした組織的な運営を行っていく。「行事の精選・スリム化」について検討し、共通理解の上で随時改善を進める。CS(学校運営協議会)には、「学習支援」や「別室登校の見守り」、「総合的な学習の時間への協力依頼」など、教員の負担を直接減らす支援の構築を相談する。

② 多文化共生・福祉の専門性の活用

豊島区教育センター始め関係諸機関やSC、SSW等の専門知見を積極的に活用する。担任一人で抱え込まず、チームで対応する体制を確立する。

3 目指す教職員像

○自分の強みを生かし、組織として協働する教職員

・自身の専門性や得意分野を学校の教育力向上に生かし、共通理解のもと連携して職務を遂行する。

○心身共に健康で信頼される教職員

・働き方を工夫し心のゆとりを保つとともに、児童の手本となる言動を心がける。苦情や相談は共有し、迅速・丁寧・誠実に対応する。

○学び続け、授業力向上を目指す教職員

・謙虚に自己を振り返り、人権感覚を磨き続ける。研修や研究発表等の機会を積極的に活用し、互いの実践を交流しながら専門性を高める。